

人生ハンド仏句

第164号

H. 27. 11. 1

(毎月1日発行)

真の包容力とは

住職 谷川寛俊

前々から思っていたことですが、高校の歴史教科書の中で日蓮聖人について語る文を見ると、ほとんどの場合「日蓮は他の宗派や政治を激しく攻撃したために迫害を受けた」という文言になっているようですが、これは間違った認識と言わざるを得ません。特定の過激的な新興宗教団体の影響を色濃く受けている証とも言えるでしょうか：？これでは身を賭して法華経を生きた日蓮聖人の法華経に対する信仰心が正しく伝わらないばかりか、日蓮聖人を侮辱していることにも繋がるもの大変残念に思っています。

実は日蓮聖人という方は、心温まる人間味溢れたお人柄だったので、温情溢れる慈しみ深い方だったことを、ここに改めて顧みたいと思います。

日蓮聖人はとても筆まめな方で、信徒に送られた多くのお手紙が現存していますが、それらを拝見すると、常に相手の苦楽や悲喜を、ご自分の苦楽悲喜として共有し、社会の苦楽を他人事出来ない温情が伝わってきます。

例えば、ご自分の活動を常に妨害し、また命を狙い続けた人に対してさえも『私を罰してくれた北条時宗こそ、私を成仏の道へ導いてくれた指導者です（私に様々な気づきを与えて下さった方です）。あるいは、私を殺害しようとした平頼綱こそ、お釈迦様を殺害しようとした提婆達多（だいはだつた）悪人の代名詞として知られる彼は、お釈迦様の従兄弟でもあります』と同じです（種種御振舞御書Ⅱしゅじゅおんふるまいごしよ）と感謝され、更にまた、私を殺そうとした東条影信や、周りの僧侶達など、数え上げればキリが無いほど日蓮聖人に迫害を加えた方々がおられました。それらの言わば敵という存在に対してさえも感謝されるほど

「人生ハンド仏句」

と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行

玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

慈愛に満ちた法華経の信仰者でした。『これらの人がいなかったら、私は仏様に認めて頂ける法華経の実践者にはなれませんでした。これらの方々が私に危害を加えて下さったお陰で、法華経の真実性を確信するに至りました。これは私にとって大きな喜びなのです』と、やはり感謝しておられます。感謝だけではありません。これらの妨害者などに対し、深い慈しみを抱いておられました。

特筆したいのは、流人で当時は生きて帰って来た人がいないと言われていた佐渡島で生命の危機にさらされている時のお手紙です：『私が臨終を迎え、お釈迦様の御前に詣でた際には、まず私を迫害してくれた人達を最初に導きたいと思っています』と。この文章は、今日殺されても明日殺されても不思議はないという危機の中で記されたということです。

こうした状況の中で、ご自分を殺害しようとしている権力者を慈しみご自身が浄土へ赴いたら、最初に自分を殺害しようとした方々を救いたいと願っておられるのです。何と大きな御慈悲でしょうか。常人には、とてもこれだけの境地には入れないでしょう。こんなに心が広く、大きな包容力に満ちた宗教家が他にいたでしょうか？なぜこれが攻撃的な人だのでしょうか。日蓮聖人の事をよく知らないで、偏見の目で見ている人が今も大勢いらっしゃる事が残念でなりません。どうか、当欄をお読み下さった読者の皆様に、日蓮聖人の御慈悲が伝わり、広まりますよう祈るばかりであります。

